

# 岡山県への視察研修に参加して

2023年11月27日

中原 あきら

参加した感想や学んだ点を記述する前に、今回の視察の準備にご苦労いただいたことに感謝すると同時に、事前に各議員から寄せられた質問事項を取りまとめたものが示されなかったことは残念でした。次回以降は、視察研修の数日前には、事前にどんな質問を先方に送っているのかを、全議員に伝えるよう改善が必要だと思えます。

それから、3つの自治体への研修で、いずれも質問時間が足りなかったもので、今後はゆとりのある日程設定をお願いしたいと思えます。

---

## 美咲町

□美咲町の人口減少が顕著だったことは知らなかったもので、危機感を持って「改革」に取り組まれている姿勢には、学ぶ点があると感じました。

自らの「まち」の強みは何か、「MVV」(ミッション・ビジョン・マインド)を全議員で共有されたとのことでしたが、その経過を詳しく聞いてみたかったです(時間がなく聞けませんでした)。

□議会の改革の取り組みを、その都度、議会事務局がマスコミに情報提供していることには驚かされました。議会事務局長が毎朝、新聞各紙をチェックして、美咲町に関係する記事を各議員に送っていることにも驚きましたが、マスコミに送る記事をまとめるのも一定の時間が必要なので、ご苦労と熱意と能力の高さに感服しました。議会の動きを住民に知ってもらえる努力に感心するとともに、私たちの岬町でも実現できるといいなと思いましたが、その実現には一定の「体制」が欠かせないとも思いました。

□地元の大学などとの連携も大変参考になりました。「議会アンバサダー」は、議会を身近に感じてもらい、議員のなり手不足の解消につながるだけでなく、新しい視点を獲得する機会にもなり、有機的な実践に感心しました。

□小・中学生を対象にした「子ども議会」では、実際の準備作業について聞いてみたかったです。というのは、大人の関りがどの程度だったのかを知りたかったからです(時間がなくて聞けずに残念でした)。

□高校生との「LGBTQ」「ジェンダー」をテーマにした意見交換についても、どんな内容だったのか、どんな声が高校生から寄せられたのかなど、聞いてみたかったです。とてもいい取り組

みだと思ったので、この意見交換研修を通じて、美咲町の議会が変わった点なども聞かせてもらいたかったです(時間がなくて聞けませんでした)。

□広報特別委員会を中心にした「出前議会」の取り組みも、私たち岬町議会でも取り組みたいと思いました。「参加者が10人程度あれば、いつでもどこへでも出向く」という柔軟な姿勢がとてもいいと思いました。

かなり高い頻度で取り組んでおられるので、各回の具体的なテーマや運営、課題などもあれば詳しくお聞きしたかったです。また、そこでお聞きした意見をどのように取り扱っているのかも聞きたかったです(時間がなくて聞けませんでした)。

□議会として Instagram も始められたとお聞きして、誰が担い、どんな内容をどの程度の頻度で発信しているのか、聞きたかったです(時間がなくて聞けずに残念でした)。

□議会の「ハラスメント条例」策定の動きには、「進んでいるな」と感心させられました。どんなきっかけがあったのか、どういった内容なのかなど、お聞きしたかったです(時間がなくて聞けませんでした)。

□「多世代交流拠点施設」については、事前に質問を投げかけていたようですが、私はそれ(事前の質問事項)を知ることができなかったので「予習」もできず、当日も詳しい説明も聞けず深めることができなくて残念でした。

□議会全体で「SDGs」に基づいて考え、実践されていることに感心させられました。また、議会は「バックカスティングで」という姿勢は、表に出るの「主役」は住民のみなさんだと考えているということだと思うので、素晴らしいと思いました。

---

## 津山市

人口規模が岬町の約7倍と、岬町には機械的に当てはめられない施策もありましたが、転入者の増加や、出生数・移住者ともに2021年度には持ち直していることなど、さまざまな分析に基づく施策が参考になりました。

□人口動態などを詳細に把握・分析され、それを施策に生かしておられる点には学ばされました。以下、気づいた点などを記述します。

▷移住・定住の促進では、移住を考えている方に寄り添ったサポートが充実していると感じました。

「8つのステップ」に沿って、移住しても「後悔しない」ように、「IJU コンシェルジュ」が一人ひとり・家庭まるごとの支援をおこなっているのだらうと思いました。

市内の地場産業の強みを生かした雇用の確保や子育て環境のよさなど、地域の「強み」を生かす姿勢には学ばされました。

近年多発している災害への備えから、津山市を移住先に選ぶ方が増えていることをお聞きし、国民意識の変化を感じましたが、災害の少なさを「売り」にしていることが功を奏していることにも感心しました。

住まいの支援策の「所有者向け」施策の工夫は、岬町でも取り入れてはどうかと思いました。

移住後にも支援を続け、「移住者交流会」を開催するなど、移住後のくらしの安心を保障する施策には、「そこまでするのか…」と驚かされ感心しました。

▶「18歳の崖」をどう克服するかはどの自治体でも課題になっていると思いますが、そこに光を当てて様々な事業を立体的に展開しておられて感心しました。

「返ってきんちがい！奨学金返還補助金」事業は、命名のユニークさとともに、高い奨学金の返済を経済的に支援する優位性のある制度で、そこに「Uターン」を組み合わせた、いい施策だと思いました。

「津山広域事務組合」として、学生の就職へのサポートが手厚く、企業とも連携して、安心して就職活動ができる環境づくりへの努力がなされており、実際に「成果」も上がっていることに感心しました。

▶「出会い・結婚サポート事業」を、地域の方々の協力も得て進めていることを聞き、驚きましたが、いい取り組み方だと思いました。

□説明して下さった職員の方のお答えの中で、「(他の自治体との)住民の取り合いではなく、相談者一人ひとりに丁寧に対応する」という言葉が印象に残りました。担当者として取り組んで来られた実感なんだろうと思いました。

人口減少の大きな原因は地方自治体にあるわけではないので、おっしゃるように自治体間競争を激化させて「取り合い」をしても、根本的な解決にはならないと思います。ただ、その地方の魅力をさらに増してそれを発信し、「選んでもらえる」自治体になっていくことは、現在お住まいの方々にとっても住みよいまちになっていくことにつながるのだから否定はしませんが、方向を間違えると職員が疲弊することにもつながるのではないかともしました。

## 西粟倉村

○「百年の森林事業」と「脱炭素」の取り組みについてご紹介いただき、極めて先進的な事例をご紹介いただき、施設見学もさせていただき、大変有意義でした。説明して下さった職員の白旗さんがこの分野の「キーマン」であることもよく分かりました。

村役場や保育施設など、木材をふんだんに活用して気持ちの良い空間がつくられていて、既成の概念にとらわれない発想とデザインにも感心しました。村役場併設の図書館機能は工夫された設計で、親子でゆったり過ごせる空間になっているようで、もっと見学させていただきたかったです。

▷「市町村合併」を選ばなかったことは賢明だったと思いますが、苦労もあったと思います。ただ、合併しなかったからこそ、自らの村を見つめなおし、その「価値」を探り、「百年の森林構想」や「低酸素なむらづくり」へと事業を発展させたのだと思いました。

若手職員を中心に、約2週間ごとに検討会を続けて、今後の村づくりについて知恵を出し合ってきた取り組みが現在に生きているのだろうと感心しました。民間(ローカルベンチャー)の方々の力も大いに発揮していただいたようですが、行政との信頼関係づくりなども、時間があれば聞きたかったです。

▷人口減少を食い止めてきている原因がどこにあるのかについては、さらに聞いてみたかったです(時間がなくて聞けなかった)。

▷「百年の森林事業」の仕組みで、私有林を村に「預けて」くれているという管理手法には驚きました。高齢化などで管理が困難になっている実態に目を向け、「課題」を「チャンス」に変えた素晴らしい事例だと思いました。

▷小水力発電事業については、岬町でも導入できないか、具体的に検討するべきと思いました。導入には経費がかかるものの、寿命が長く、長期に渡る収入を生み出すことを教示いただき、大変参考になりました。

▷木質バイオマス施設を見学させていただき、伐採した木材を「無駄」にしないで、すべてをエネルギーに変えて、さらに「地産地消」でエネルギーを村内で循環させる取り組みにも感服しました。

▷「家庭の脱炭素化」では、豊富な補助金メニューがあり、村ごと「脱炭素化」に取り組める環境を整えようとしていることに感心しました。村民が、村が取り組んでいる「脱炭素化」をどう考えているのかなど、村民の意識についても聞いてみたかったです(時間がなくて聞けずに残念でした)。

▷事前にいくつも質問を送っていただいていたはずですが、私の質問にはあまり答えていただけていなかったようで残念でしたが、施設見学などもさせていただき、興味深い研修でした。